

# 編集後記

- 50周年記念例会を開催した7月3日の50年前の新聞より。ちなみにその日も日曜です。「日本の人口ついに1億人越す」がトップ記事で、日本発の本格的航空宇宙ショーも開催されたとか。某大手製薬会社の日焼け止めクリームがなかなかで、「つけていてもお面をかぶったようにならない透明なクリーム」となっていました。それまでの製品は塗ったらお面のようになっていたのでしょうか? (河原由恵)
- 今まで穿いていたズボンがきつくなりさすがにどうにかせねばと思い、今年の2月よりエアロバイクなるものを購入。毎日10kmをノルマとして約30分ほど漕いでいます。天候に関係なく室内でできるのとハードルを上げすぎないよう無理なくできる運動量をこなしております。結果3ヶ月ほどで5kgの減量に成功。ただそこからあまり変わらず、日本酒中心の晩酌を見直そうかと思案中です。(天野隆文)
- GWに三重大生の娘が帰省しました。東京は不慣れな田舎モノですが、その日は表参道に行くから帰りは駅まで迎えに来てねとのこと。ところがそろそろ戸塚に着くはずだった娘から「どうしようママ、今大宮〜!」と電話が。帰りに渋谷で飛び乗った湘南新宿ラインはなんと反対方向。けっきょく終電にも遅れ、急遽東京の姉宅に泊めてもらえて助かりました。心配性の私と真逆な娘がまた心配な今日この頃です。(高橋さなみ)
- 最近、疣の診療をしている小学生に、将来の夢が変わったと言われました。「シューっとしたいから、皮膚科のお医者さんになるんだ!」と。我慢強い彼が、そんなことを考えていたのかとびっくりするとともに、彼が医者になるころには、クリオセラピーに代わる痛くない治療法が主体になっているとよいなと思いました。(掛水夏恵)
- 時のたつのは早いもので、もう編集後記を書く時が来てしまいました。4月からの新年度を迎え、医師会関係の人事にいろいろとごたごたがあり、振り回されて委員会を欠席せざるを得ず、申し訳ありません。本号が発行されるころには一段落して、落ち着いて仕事ができると期待しております。(小島雅彦)
- 普段は魚中心で肉は鶏肉を少々のお食生活を送っておりますが、“たまにはステーキでも食べたいな!”という欲求に駆られ、どうせ行くなら美味いと評判の店へと急遽沖縄へ行ってきました。肉食ぞろいのレスラーたちでも好みが真っ二つに分かれる有名ステーキ店の“ジャッキー”と“88”。この2軒を2日かけて制覇。双方美味でしたが、肉の柔らかさと脂身の少なさからジャッキーのリピーターになりそうです。(相川洋介)
- 7月はセミの季節です。元来九州などの温暖な地域にみられるクマゼミは、近年茅ヶ崎、平塚など神奈川に多く生息しております。公園内の土に穴があり、水を入れると幼虫が出てきます。採取したセミの幼虫を家の網戸に付けるとある程度登ったところで止まり、羽の乾いていない薄黄緑色の成虫がブリッジしながら殻から出てくると、生命の神秘的な美しさを感じます。そんな7月がまたやってきます。(加藤正幸)
- 今日はやたらと小学生がたくさん受診し、しかもみんな真っ赤に日焼けしていた。お蔭で午前外来が3時半までかかってしまい、患者さん親子は待たされすぎてうんざり顔で診察室に入ってくる。横浜市の小学校が一斉に運動会をやると代休も同じ日になるので、例年5月の最後の月曜日は大混雑、というのが子ども病院の宿命のようだ。それに、6月2日の横浜開港記念日も。(馬場直子)
- 三陸海岸の美しさ感動したのは私が小学生の時。父に連れられて家族旅行で訪れた時でした。もう一度、あの海岸線の美景を見たいとずっと思っていました。震災に見舞われて6年余り。その後も三陸に行く事ができず、時間がどんどん経って行きます。先日、日皮会総会で仙台に降り立った時、改めて思いました。私は、あの時から何もできなかった。いつか、今度は私が父を連れて、あの地を訪ねに行こう。(山川有子)

## 神皮〈第24号〉

2017年7月2日発行  
発行 神奈川県皮膚科医会  
発行人 鎌田英明  
〒235-0016 横浜市磯子区磯子6-38-18  
電話 045-753-0445  
制作 かまくら春秋社

### ■表紙のことは

「大雄山の紅葉」

定年退職後、父は趣味のカメラを片手によく出かけるようになりました。天気が良いと写真撮影もうまくいくようです。

大雄山(だいゆうざん)の紅葉は、地域のウォーキングの会に参加した際に撮影したようです。最乗寺(さいじょうじ)は、南足柄市大雄町にあり、大小さまざまな下駄が奉納されていることで有名なお寺です。開山の頃からの天狗伝説があり、広大な敷地の8ヶ所のパワースポットに最近はお参りが絶えないようです。

今回、神皮の表紙に良いものはないかとお話で、父の写真をご覧いただき、表紙を飾らせて頂けることになりました。仲間たちと写真展を開いたりしているものの、印刷物になるのは初めてなので、父も非常に喜んでおります。(掛水夏恵)